

# 乙巳の年、努力が実を結ぶことを願って

## (一社)山口県建築士事務所協会 会長 小倉 凡



昨年は元日に発生した能登半島地震や8月に発表された「南海トラフ地震臨時情報」など、日本列島が不安な気持ちになつた年であつたと思います。

建設費の増大や工期の遅れなどに加え、高齢化や若者の定着率の低下等により設計事務所の継続性にかかわる問題が山積しています。

業務はますます高度化、複雑化することが予想されます。本年4月から施行される改正建築物省エネ法等による建物の省エネ基準適合義務化、建築確認の4号特例の見直し等が行われ、最新の法令に対応した設計を行うなど日々アップデートして

向上に努めなければならぬと考えております。このため、当協会では引き続き、生産性向上に資するBIMセミナーや建築士事務所の開設者向けの研修会やDXを用いた新たな技術などの研修会・勉強会を開催するほか、若者の新規就労者の増加や定着率の低下の克服に向け「建築のおもしろさ、楽しさ」や設計事務所の魅力を、建築を学ぶ若者に向けて発信するなど、様々な取り組みを積極的に進めてまいります。

本年は大阪万博も開催され、インバウンドの成果が発揮され経済の飛躍が期待できる年になると思います。今年の干支は「乙巳」(きのと・み)です。「巳」は植物が成長し広がっていく様子を表し、「巳」は植物が極限まで成長した状態を表します。今年はこのこれまでの努力や準備が実を結び始める年になりそうです。

新年あけましておめでとございます。年頭にあたり慎んでご挨拶申し上げます。

また、平素より、山口県建築士事務所協会の運営・活動につきましてご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、建築業界では、民間企業を中心とした設備投資の増加により業務量が増えている反面、ロシアによるウクライナ侵攻や急激な円安による資材価格の上昇や人手不足、働き方改革における2024年問題等により

また、生産性の向上を目的とした建設DXが進められており、BIMによる設計やドローンを活用した赤外線などによる外壁調査等のニーズの増加、50年カーボンニュートラルの実現に向けた対応など、建築士事務所

となる建築物の規模の見直しが行われ、また、構造規制の合理化として小規模研鑽に励み設計技術の

保にこたえるためには、会員それぞれがコンプライアンスを遵守しつつ、自

最後にになりましたが、本年が皆様にとりまして、幸多き年になりますように心からお祈り申し上げます。

## 推進

本県の営繕工事においては、担い手確保・生産性向上・地域における対

となる建築物の規模の見直しが行われ、また、構造規制の合理化として小規

己研鑽に励み設計技術の

保にこたえるためには、

最後にになりましたが、